

3類型	農林水産物	通巻番号	2-24-001
地域資源名	藍	認定日	平成24年6月20日
地域	青森県青森市	所管省庁	農林水産省、経済産業省

事業名: 青森独自の染料化技術を核とする「あおり藍」ブランド商品の開発、製造、販売

会社名: あおり藍産業協同組合 所在地: 青森県青森市大字三内字稲元85番地4

連絡先: TEL: 017-766-0188

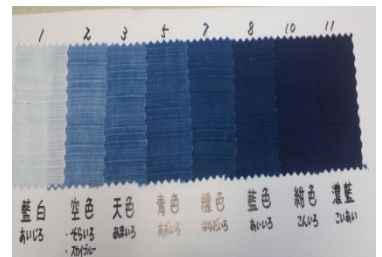
### 事業概要(新たな活用の視点)

- 当組合は、青森県内で契約栽培される無農薬、良質の藍葉を原料に、伝統的製法の「すくも藍」に比べて効率的に生産できる「あおり藍」を開発、色落ちや変色などの耐久性、抗菌性を強みに、藍染めの魅力を気軽に楽しんでいただくため、肌に優しく、使いやすい、衣料品・日用品など、国内外の市場へ「AOMORI BLUE」ブランドの浸透を図る。

### 売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

#### ◆競争力

- 藍葉のパウダー化により染料生成技術を確立したことで、「あおり藍」は従来の「すくも藍」の1/20の期間で染料を製造することを可能にした。併せて、組合を構成する各社が有する縫製、刺繍、プリント・抜染、生産設備の技術を強みとした生産体制を確立したことで、従来の伝統工芸品から脱却して工業製品化を実現、機能性、品質を追求しながらコストダウンを図ることができる。
- 「あおり藍」による藍染は、従来の約5倍の抗菌活性物質を含み、抗菌性・防臭性に優れている。これまで海外ブランドとの戦略的提携や、宇宙飛行士が着用した衣料品への採用などの実績を有する。



藍の染色回数

#### ◆市場性

- 国内の衣料品生産は減少傾向にあるが、ニット製アウターシャツ等だけでも約16百万枚、生産されている(平成22年、経済産業省繊維生活用品統計)。
- 本計画は、従来の非常に高価な伝統的な藍製品ではなく、カジュアルに使用したい、青系色を好む消費者をターゲットに、十分市場を見込める。



「あおり藍 AOMORI BLUE」タグ

#### ◆販路

- 国内外の展示会への出展や百貨店等への営業を通じて販路の拡大に取り組む。また、国内外のアパレルブランドと戦略的提携を通じて、新たな販路を開拓する。

### 地域資源における関係事業者との連携

- 農事組合法人羽白開発など、地域の藍葉栽培農家と連携して、良質の藍葉を通年確保する。また、当組合を構成する企業の連携をさらに強化して一貫した生産、技術開発、販路開拓に取り組む。
- あおり藍が有する優れた効果を活用して新たな機能性商品を開発するため、弘前大学、青森県産業技術センター弘前地域研究所と連携して、共同研究を行う。



アパレルブランドとのコラボレーション例